

# 令和5年度 潮来市総合教育会議 議事録

○日 時 令和6年2月26日(月) 午前9時30分から午前10時35分

○場 所 潮来市社会福祉協議会 会議室

○出席者

潮来市長		原 浩道	
潮来市教育委員会	教育長	横田 直樹	
	同	教育長職務代理者	小松崎 修平
	同	教育委員	茂木 悦男
	同	教育委員	飯田 三矢子
教育部局	教育部長	石神 弘幸	
	学校教育課 課長	村田 慎一郎	
	学校教育指導室長	大里 俊一	
	生涯学習課 課長	吉川 増夫	
	学校教育課 課長補佐	泉 昭彦	
	学校給食センター長	大塚 浩行	
	学校教育課 係長	森内 利典	
事務局	市長公室長	塙 誠一	
	企画政策課 課長	河瀬 由香	
	企画政策課 課長補佐	仲澤 智哉	
	企画政策課 主幹	小杉 翼	

1. 開 会

2. あいさつ

3. 議 題

(1) 潮来市教育大綱の改定について

(2) 第2期教育振興基本計画・学校適正化計画策定の進捗状況について

(3) その他

4. 閉 会

## 議題1 潮来市教育大綱の改定について

### (教育委員)

- ・理念として掲げられている「たわやか」という言葉は、普段あまり使わない言葉のため、意味が伝わりづらいのではないか。市民の方に伝わるのが大事。
- ・総合計画の策定委員会とは、どのようなメンバーで構成されているのか。
- ・総合計画のパブリックコメントでは、市民の方からどのような意見があったのか。

### (事務局)

- ・理念の「たわやか」という言葉については、総合計画審議会等の委員の方からも、一般的なわかりやすい言葉の方がよいのではないか、というご意見もいただいている。今後、審議会等において改めて議論していきたい。
- ・総合計画策定委員会は、市役所内部の組織であり、副市長を委員長、教育長を副委員長、各部課長を委員とし、総合計画の内容について検討していただいている。
- ・総合計画のパブリックコメントの結果については、現在集約中であり、詳細についてはお伝えできないが、5名の方から12件ほどのご意見をいただいている。

### (教育委員)

- ・総合計画後期基本計画の素案を見ると、これまでの前期基本計画の反省や、新たな課題、これから行っていく取り組み等が記載されており、審議会等においてよく検討がなされているのだなと感じた。ぜひ、知恵を出し合って、さらに良い計画ができるように進めていただきたい。

### (教育委員)

- ・組織として仕事を進めていくにあたっては、各自がつい目先のことに集中してしまい、このような根本となる計画といったものを意識しなくなってしまうことが多いと思う。計画を立てて終わりではなく、計画を立てたら常に意識付けをしながら、皆で課題を共有し、そして、最終的に計画したとおりに進められたのか検証を行うことが重要。また、市民の方にも大綱を共有する等、より多くの人に浸透させていくことも大事である。

### (市長)

- ・教育大綱について、その取り組み等がなかなか外に伝わっていないのが現状である。大綱に記載された内容について、もっと身近なところで感じられるように周知し、より多くの方に共有してもらおうということが大事であるし、そのように進めていければと思う。

(教育長)

- ・教育委員会でも、市の校長会において、各学校の教育目標や、月ごと・学期ごとの計画の中に、教育大綱の内容について盛り込んでいただければと、説明をさせていただいている。次年度以降も継続して取り組んでいきたい。

(教育委員)

- ・校長先生方は、各学校のグランドデザインを作成されているが、その際に県や市の教育方針等も踏まえて作成していると思う。校長先生方にも、教育大綱を活かしていただくうえでは、やはり誰が見てもわかりやすい計画とすることは大事。

(教育委員)

- ・計画等で使用する言葉は、わかりやすいフレーズにした方が、多くの人が理解して納得できる計画になるのではないかな。
- ・大綱の「目指す姿」の部分について、例えば、「教育環境が整っています。」というような文章になっているが、そういった環境がもうすでに整っているような意味にもとれる。誰もがわかりやすい計画とするうえでは、言葉遣い等についても配慮していただきたい。

(事務局)

- ・総合計画の内容については、審議会等で改めて検討していきたい。
- ・総合計画後期基本計画は、令和6年度から令和10年度までの5年間の計画期間となっている。「目指す姿」の「～しています。」という表現については、計画の最終年度である令和10年度において、そのような状況になっているということを表示したものであり、そういった「目指す姿」に向かってこれまで以上に取り組んでいきたいという考え方のもと作成したものである。

## 議題2 第2期教育振興基本計画・学校適正化計画策定の進捗状況について

(教育委員)

- ・学校適正化計画について、潮来小学校と津知小学校の統合については、だいぶ以前から聞いており、そのための準備も進んでいると思うが、一方で、潮来第一中学校と牛堀中学校の統合については、準備期間が短く統合までの時間があまりないような感じがするが、準備はどのくらい進んでいるのか。

(教育部局)

- ・今後10年間の生徒数の推計において、牛堀中学校は、令和10年に生徒数が77人になると推計されており、牛堀中学校の統合については、急がなければいけない

という認識を持っている。市民や保護者の方々へは、今後も地元説明会等を通じて、ご説明させていただければと考えている。

- ・潮来第一中学校と牛堀中学校の統合の準備について、現在の潮来第一中学校の校舎や施設の状況を見ると、大規模な改修工事等を行わなくても、牛堀中学校の生徒を受け入れることができると考えられる。また、昨年末に行った、各中学校 PTA の皆様と教育委員会との懇談の場では、各 PTA の役員の皆様から、できるだけ早めに統合してほしいというご意見もいただいていることから、今回の計画の中では、統合についてきちんと明記させていただいた。今後も統合に向け準備を進めていきたい。

#### (教育委員)

- ・令和 8 年度に潮来第一中学校と牛堀中学校が統合され、続いて令和 11 年度に市内の中学校が一つになるという計画を見ると、間隔がすごく短いのではという印象がある。まずは、市として牛堀中学校の課題を先に解決したいということだと思うが、もっと早く市内の中学校を一つにすることはできないのか。

#### (教育部局)

- ・まずは、牛堀中学校の課題解決について、教育委員会としても急いで対応していきたいと考えている。お子さんたちに与える影響等も考慮しながら、地元説明会等で、市民や保護者の方々になるべく丁寧にご説明させていただきながら準備を進めていきたい。

#### (市長)

- ・現在、牛堀中学校の生徒の皆さんには非常に迷惑をかけてしまっている。校舎は大変老朽化が進んでいるし、トイレ等の改修は行っているが、施設の全体的な改修はしていない状況である。それは、数年後に統合が控える中、全て改修してしまうと、それが無駄になってしまうからであるが、良い教育環境とはいえなくなってしまう状況にあるため、子どもたちのためにもできるだけスムーズに統合しなければと考えている。また、生徒数が少なくなり、例えば、部活動や集団活動等といった部分でも支障が出てきている状況にある。ただ、一度に市内の中学校を一つにしようとする、今度は学校建設計画等と合わなくなってしまうということもあり、少し時間はかかるけれども、まずは、牛堀中学校の課題を解決し、その後に、将来的な生徒数等を考えながら、中学校を一つにしていくというのが、今回の計画の考え方になっている。

#### (教育委員)

- ・令和 8 年度に潮来第一中学校と牛堀中学校が統合し、その後、令和 11 年度に市内中学校が一つになるとすると、各家庭の負担が増えてしまうのではないかと例

例えば、学校の制服や体操服等、使用するものは非常に高価なので、今までであれば、お下がりで済んだのに、その都度新たに購入しなければならなくなってしまう家庭も出てくる。ぜひ、中学校が一つになったその先にも目を向けていただき、制服や体操服等は、ある程度早い段階からあらかじめ設定し、今後、新たに購入する際には、統合後の新しい制服も選択できるようにする等、家庭の負担が軽くなるような対策を検討していただきたい。

(教育部局)

- ・例えば、制服については、ジェンダーという観点にも配慮し、中学校においてはスカートかパンツを選べるようにする等、現在でも教育委員会において改善を進めている状況である。今後も、学校の統合の有無にかかわらず、制服の一本化等も含めて協議をしていきたい。

### 議題3 その他

(教育委員)

- ・新しい計画を作成するにあたり、ぜひお願いしたいことは、今までこうやってきたから、また次の年も同じようなことをやるということではなく、柔軟に新しいものにもチャレンジして行っていただきたい。様々な課題を見据えて、多くの人の意見を集約しながら実態を見つつ、効果のないものは改善し、ニーズに合った事業展開をしていただけるとありがたい。

(教育委員)

- ・様々な会議に参加したりすると、潮来市のキャッチフレーズというか、潮来市ってどんなまちなのかを考えると、ぜひ「教育のまち潮来」というのを前面に出していただきたいと感じる。若く柔軟な子供たちに、より良い教育を受けてもらい、将来に活かしていただきたい。例えば、潮来の学校に通うと英語が話せるようになるよとか、そういった魅力のある潮来の教育を目指していただきたい。
- ・少子高齢化が進む中では、子どもたちにもそのような課題や現状について伝えることで、子供たちもそれに対して自分でいろいろ考えて理解し、こうしたらいんじゃないかなって自分の意見を持つきっかけにもなると思うし、市においても、子供たちの新しい発想をどんどん取り入れて行っていただきたい。

(教育委員)

- ・ランドセルの色について、現在は男女別になっている。保護者アンケート等の意見も踏まえて決められているのだと思うが、アンケートで多かった意見を反映するというだけではなく、先ほどジェンダーの話もあったが、そのような観点等も

踏まえながら検討いただき、例えば、一色に統一することも良いと思う。

(事務局)

- ・ランドセルの色については、子育て会議という場で議論をしており、令和6年度は現状の藍色と赤の2色となる予定であるが、令和7年度以降どうするかというところは、その会議の中で検討をしていくこととなる。

(市長)

- ・ランドセルの色は、いずれ統一したいと考えているが、実際に使うお子さんと親御さんの意見も大事にしていかなければならない。これまでも、形を大きくしたり、重さを軽くしたり、物を入れやすくしたり等、そういった改善は実施しているところである。色についても、引き続き検討していきたい。

(教育長)

- ・重要な会議として捉えているのが、毎月の校長会である。この会議については、このようにやっていきましょうという報告会のようなものではなく、自分の学校の課題は何なのか、あるいは、他の学校と連携できることはどういうものがあるのか等、コミュニケーションを図りながら、学校が全体的なまとまりをもったうえで、動いていけるような会議としていきたいと考えている。そういったコミュニケーションがないと、市としてバラバラな学校教育になってしまうということは常々、校長先生方にもお伝えさせていただいている。だいたい学校の方でも、校長先生同士で話し合いをし、各学校の連携を図っていくとか、ここだけは自分の学校の独自性を出したうえで進めていきたいというようなご意見も、聞かれるようになってきている。教育委員会としても、集約を図りながら連携していきたいと思うし、ぜひ教育委員の皆様におかれても、何かお気づきの点等があればお聞かせいただき、参考にさせていただきたいと思う。